

大牟田市スポーツ推進計画



大牟田市

はじめに



スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる

まち
都市づくり おおむたを目指して

本市は、平成2年に福岡県で開催された第45回国民体育大会「とびうめ国体」を契機に、スポーツを通した住みよいまちづくりを目指し「スポーツ都市宣言」を行いました。この宣言の理念の実現を図るため、行政、スポーツ関係団体、学校、地域団体、経済団体、労働団体、大手事業所、医療、福祉等、市内の様々な関係団体により「スポーツ都市宣言推進協議会」を組織し、協働して取り組みを進めてきました。

そのような中、スポーツに求められる価値や意義、スポーツが果たす役割も時代の流れとともに変化し、体力向上や健康づくりのための身体的効果や、青少年の健全育成などの教育的効果にとどまらず、地域におけるコミュニティの形成や地域経済の活性化への寄与など、社会的な役割にも注目が集まるようになりました。

スポーツの多様性、重要性がさらに高まっていく中で、宣言から20年が経過した平成23年3月、宣言に掲げる理念のさらなる実現を目指して「大牟田市スポーツ振興計画」を策定し、今日に至っています。

この間、コロナ禍等による影響を受け、私たちの生活様式は大きく変化しました。活動の自粛や施設の利用制限を経験し、スポーツを取り巻く環境や人々の意識もまた、様変わりしています。こうした状況の中、新しい総合体育館が令和6年4月の供用開始を予定しており、本市のスポーツを取り巻く環境は、なお一層の変化の時を迎えようとしています。

このようなことを受け、このたび、令和5年度から14年度までの10年間の計画期間とする「大牟田市スポーツ推進計画」を新たに策定いたしました。

新しい計画では、現計画の基本理念である「スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる都市（まち）づくり おおむた」を継承しつつ、時代のニーズを捉えた新たな視点も多く盛り込みました。

新計画のもとで、引き続き、市民やスポーツ団体など各種団体の皆様と協働しながら、スポーツを通したまちづくりを強力に推進してまいります。

結びにあたり、計画策定に当たってご尽力いただきました、大牟田市スポーツ推進審議会の委員各位をはじめ、関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

令和5年3月 大牟田市長 関 好孝

目次

第1章	計画策定にあたって	1
1.	計画策定の趣旨	1
2.	計画の位置づけ	2
3.	計画期間	3
4.	本計画とSDGs	3
第2章	スポーツの現状と課題	4
1.	大牟田市スポーツ振興計画の評価	4
2.	現状と課題	9
第3章	スポーツ推進計画の構想	16
1.	計画の基本理念	16
2.	計画の目標及び成果指標	16
第4章	施策の推進	18
1.	施策体系	18
2.	施策の方向性	20
3.	施策の推進にあたって	28
資料編		
参考資料1	スポーツ審議委員等名簿	29
参考資料2	計画策定の経過	30

第1章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

スポーツ基本法の前文には、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なもの。」と記述されています。

スポーツは、健康・体力・生きがいづくり、青少年の健全育成、そして地域コミュニティの活性化の観点からも、今後も一層推進していくことが求められています。

本市は平成2年（1990年）7月にスポーツ都市を宣言し、この宣言に掲げる目標の達成に向け、市民がいつでも、どこでも、誰もが気軽に生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、スポーツの機会づくり、支援の仕組みづくり、楽しめる環境づくりを推進することや、スポーツを通して人と人の絆が深まり活力ある都市づくりを目指して、平成23年（2011年）3月に大牟田市スポーツ振興計画を策定し、様々な施策を展開してきました。

現計画における当初の計画期間は10年（令和3年3月まで）でしたが、令和5年度中に整備予定の総合体育館の活用の方角性との整合を図るために、新計画の策定を2年延期し、令和3年度～4年度で基礎調査及び計画策定を行いました。

計画策定に当たっては、現計画の総括を行い、本市における運動・スポーツに関する実態調査の結果を基にするとともに、国（スポーツ庁）の第2期スポーツ基本計画及び第3期スポーツ基本計画（令和4年度～）、福岡県スポーツ推進計画（令和元年度～）との整合を図りつつ、本市独自の取組み（総合体育館の利活用、ホストタウン継承事業）や、今後の拡充が求められる障害者スポーツ、スポーツツーリズム¹、健康づくり等の観点も盛り込みました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動の自粛や施設等の利用制限など、スポーツを取り巻く環境が大きく変化しています。

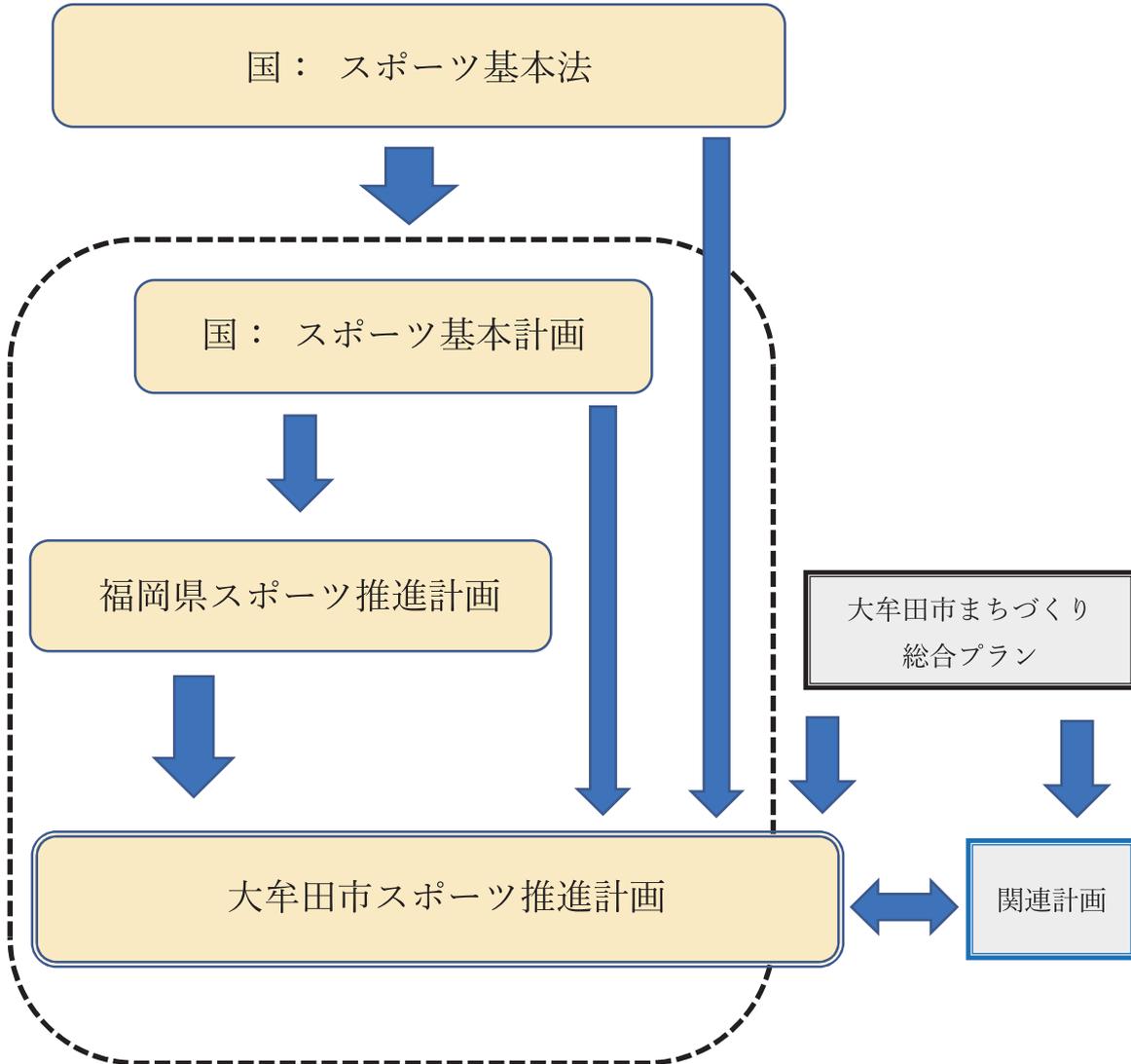
そのような中であっても、令和3年7月から9月にかけて開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、本市で事前キャンプを行ったアフガニスタン・イスラム共和国の陸上競技選手団が懸命に競技する姿は、市民に大きな感動をもたらしました。

スポーツを通じたまちづくりを引き続き推進していくため、大牟田市スポーツ推進審議会等の意見を踏まえ、スポーツ基本法第10条に規定されている地域スポーツ推進計画となる「大牟田市スポーツ推進計画」を策定します。

¹ スポーツツーリズムとは、スポーツ資源とツーリズムを融合する取組みをいい、既存のスポーツ資源のほかにも地域資源がスポーツの力で観光資源となる可能性も秘めている。

2. 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条の規定に基づく計画として位置付けるもので、国のスポーツ基本計画や福岡県スポーツ推進計画及び大牟田市まちづくり総合プラン等を踏まえ、本市のスポーツ施策を推進していく上での基本的な方向性を示すものです。



3. 計画期間

令和5年度から14年度までの10年間とし、計画策定から5年を目処に、取組みの中間評価を行います。また、国や福岡県の動向や社会情勢の変化等により、必要に応じて計画の見直しを行います。

4. 本計画とSDGs

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしています。

スポーツ庁においては、スポーツSDGsとして、スポーツの持つ、人々を集める力や人々を巻き込む力を使って、SDGsの認知度向上、ひいては、社会におけるスポーツの価値のさらなる向上に取り組んでいます。

一方、本市は、目指すべきまちの実現に向けてSDGsの理念に基づいた取組みを推進しており、優れた取組みを行う都市として、令和元年に国の「SDGs未来都市」に選定されました。

少子高齢化や人口減少が進行する中で、将来に向けて持続可能な社会を形成するために、スポーツの持つ力を活用したSDGs達成へ向けた取組みを推進します。



第2章 スポーツの現状と課題

1. 大牟田市スポーツ振興計画の評価

大牟田市スポーツ振興計画の8つの目標の達成状況については以下の通りとなっています。

(1) 運動・スポーツの習慣化と機会の充実

成人の週1回以上の継続的運動・スポーツの実践者が50%以上になることを目指します。(策定時 30.6%)

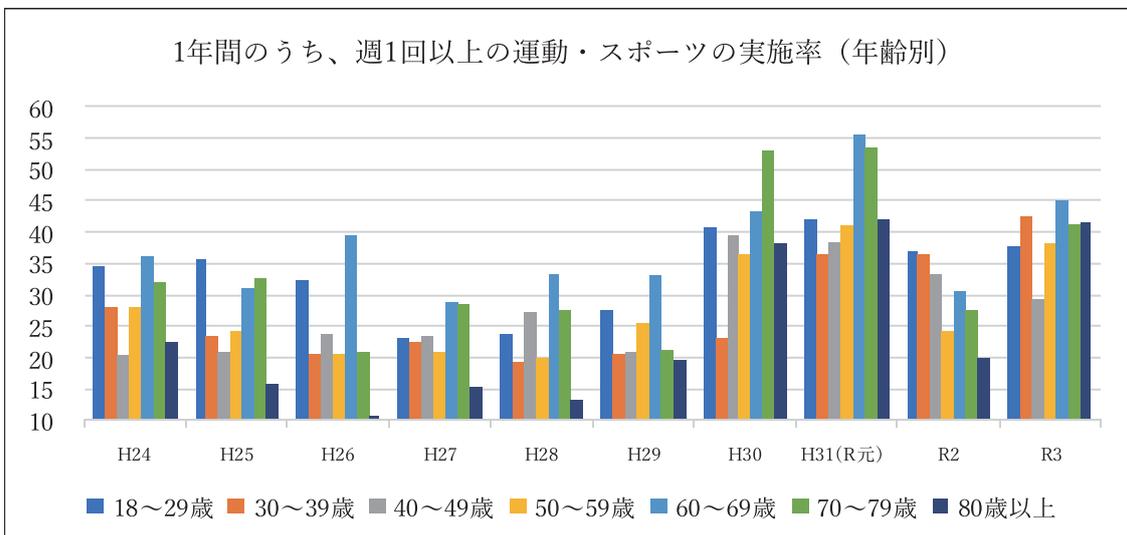
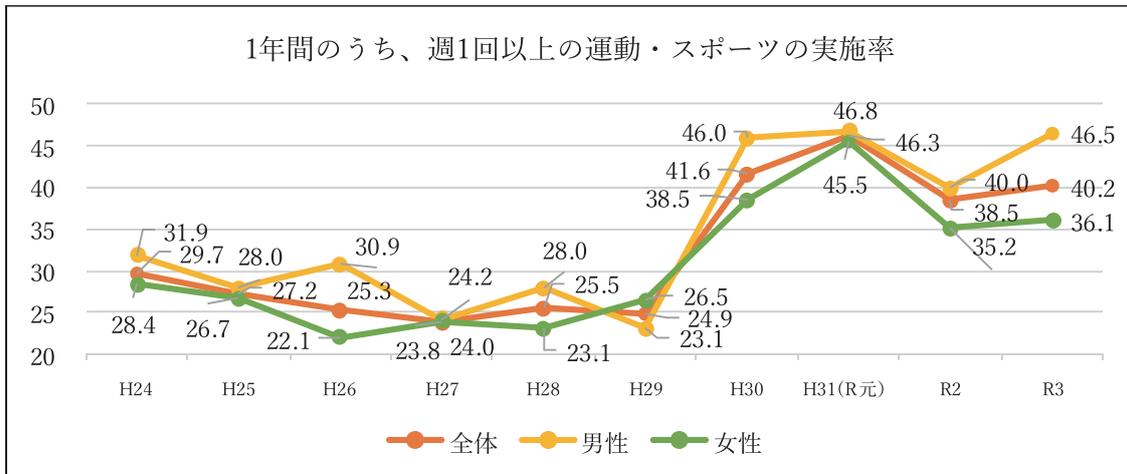


近年では、令和元年度の実施率が46.3%と最高値となりましたが、目標の50%に達していません。

特に、30歳代から50歳代の年齢のスポーツ実施率が低いのは、仕事や家事、育児、介護等が忙しくて時間がないという現状があるため、身近な場所で、わずかな時間でも気軽にできる取組みを広めていく必要があります。

	H30年度	H31年(R元年)度	R2年度	R3年度
実施率	41.6%	46.3%	38.5%	40.2%

*まちづくり市民アンケート結果による



(2) スポーツクラブ加入者の増加と総合型地域スポーツクラブの創設・育成

日常的なスポーツ活動の場であるサークル等スポーツクラブへの加入率が市民の30%以上になることを目指します。また、その受け皿として総合型地域スポーツクラブの創設を支援します。(策定時26.2%)



総合型地域スポーツクラブの創設については、平成17年度に設立された「右京ふれあい健康クラブ」の1か所が活動を継続していますが、新たなクラブ設立には至っていません。

総合型地域スポーツクラブの認知度が低いことから、クラブの普及・啓発、情報提供の強化が必要です。



(3) 子どもの体力向上と健全育成の推進

小・中学生の体力テストのすべての項目が全国平均を上回るよう、児童・生徒のスポーツ活動の活性化を図ります。



令和3年度は、特に新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、全国平均を下回る項目が多くみられました。

今後、体力や運動に対する課題を明確化して、児童生徒の実態に応じた体力・運動能力の向上の取組みが必要です。

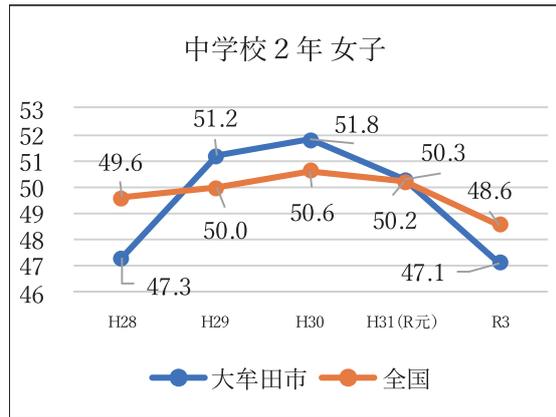
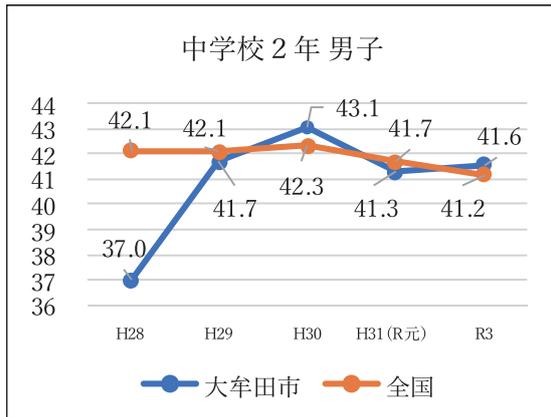
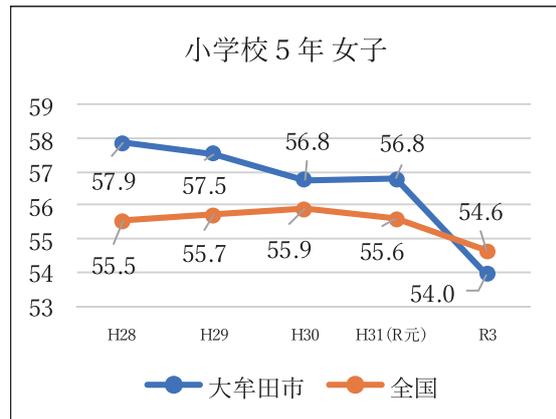
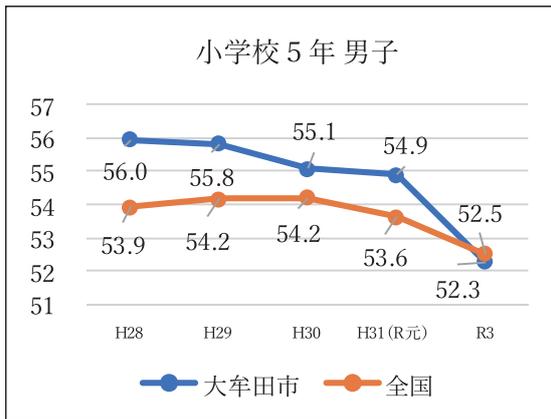
体力テスト全国平均を上回った項目数

項目	H30年度	H31年 (R元年)度	R2年度	R3年度
小学生8項目(男子)	7	7	-	4
(女子)	7	7	-	5
中学生8項目(男子)	5	4	-	3
(女子)	7	4	-	3

*令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため体力テスト未実施。

*テスト項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、20mシャトルラン(小学生)、ソフトボール投げ(小学生)、20mシャトルランか持久走の選択(中学生)、ハンドボール投げ(中学生)。

体力合計点



* 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（スポーツ庁）による

(4) スポーツ指導者の育成と指導力の向上

地域スポーツ、競技スポーツ指導者の養成について、スポーツ活動を継続的に指導できる新たな人材の育成・発掘に努め、派遣制度等の充実を図ります。



指導者の育成については、各種研修会等を実施しました。今後も引き続き人材の育成・発掘に努める必要があります。

- ・スポーツ推進委員の育成（研修会の開催、研修会への派遣 H23～継続）
- ・スポーツ少年団指導者研修会（スポーツ少年団：H23～継続）
- ・スポーツ医科学研修会（体育協会：H24～継続）



(5) 県民体育大会の上位入賞

福岡県 5 番目の都市にふさわしく、県民体育大会（県民スポーツ大会）総合成績 5 位以内を目指します。（策定時 7 位）



最高順位 6 位（R4 年度）

	H31 年（R 元年）度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
順位	7 位	中止	中止	6 位

最高順位は、6 位であり、目標の 5 位以内は達成できていません。

各競技団体が県民スポーツ大会の上位入賞を目標として、引き続き選手の競技力向上に取り組む必要があります。

(6) スポーツ施設の有効活用と充実

広域圏、地域施設など生活圏に対応したスポーツ施設の整備とスポーツ施設の有効活用と充実を図ります。



日本スポーツ振興センター助成事業（toto くじ助成）等を活用しながら、改修工事等を実施しました。

今後も有利な財源も活用し、老朽化した施設の改修や誰もが使いやすい安全で快適な施設整備に努める必要があります。



平成 29 年度
延命球場
スコアボード等改修

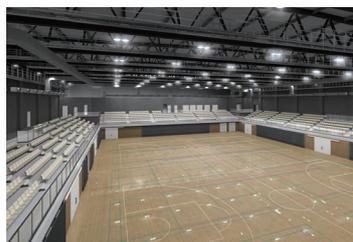


令和 2 年度
諏訪公園テニスコート
照明 LED 化改修



令和 2 年度
御大典記念グラウンド
写真判定装置設置

大牟田市総合体育館の整備
令和 6 年 4 月供用開始予定



学校体育施設の開放状況

	H30 年度	H31 年 (R 元年) 度	R2 年度	R3 年度
利用人数 (団体)	192,948 人 (219 団体)	178,218 人 (245 団体)	135,955 人 (198 団体)	101,741 人 (196 団体)

(7) スポーツ情報の提供の充実

市民がスポーツ活動を展開するに当たって必要なスポーツ情報が入手できるような情報提供の充実を図ります。



日本スポーツ振興センター助成事業 (toto くじ助成) を活用して、本市のスポーツに関する情報や、各種スポーツ大会、スポーツ教室などのスケジュール等を掲載したスポーツカレンダーを作成し、市内の小学校、中学校、特別支援学校の全児童・生徒、公共施設等へ配布しています。

今後もスポーツカレンダーの配布や、SNS 等による情報提供の充実を図る必要があります。



(8) スポーツを通じた新たな地域社会の形成

スポーツが新しい地域社会形成 (スポーツによるコミュニティづくり) に貢献する文化として高く評価され、市民に認知されるようになることを目指します。
さらに、スポーツ活動を社会全体で支える基盤の整備を図ります。



具体的な数値目標は設定していませんでしたが、スポーツ活動は地域住民の結び付きを強め、地域の一体感を生むなど、活気ある地域づくりに大きく貢献するものと考えます。

市内の小学校、中学校、特別支援学校の体育施設はすべての学校で開放しており、身近な場所で気軽に運動・スポーツが行える環境にあります。総合型地域スポーツクラブなどの地域活動は、全校区で普及している状況ではないため、クラブの普及・啓発、情報提供の強化が必要です。

また、地域には、小学校区毎に推薦を受けたスポーツ推進委員が配置されており、今後も地域住民のスポーツ推進のための活動を充実させていく必要があります。

2. 現状と課題

I 調査の概要

1 調査の目的

市の運動・スポーツの現状、市民意識等を調査、分析し、来年度策定する「大牟田市スポーツ推進計画」の基礎資料とするために実施するもの。

2 調査対象

市 民：大牟田市在住の18歳以上を1,000人無作為抽出

スポーツクラブ：大牟田市内で活動する、各地域スポーツクラブ253団体

児童・生徒：大牟田市に所在する小学校19校、中学校8校からそれぞれ、指定する学年のうち、1クラスずつ710人抽出

3 調査期間

令和4年2月7日から令和4年2月28日

4 調査方法

郵送による配布・回収

インターネットによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市 民	1,000 通	389 通	38.9%
スポーツクラブ	253 通	172 通	68.0%
児童・生徒	710 通	710 通	100.0%

6 調査結果の表示方法

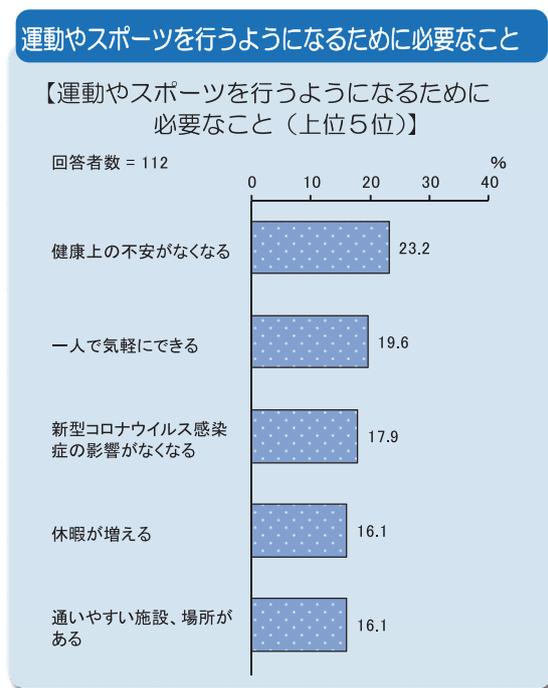
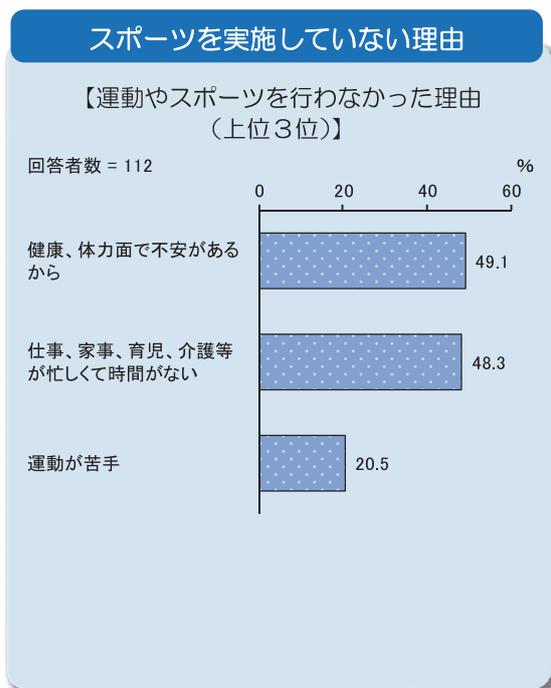
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・平成20年度調査では、無回答を除いており、設問によって回答者数が異なります。

II 調査から見たもの

1. 市民意識調査

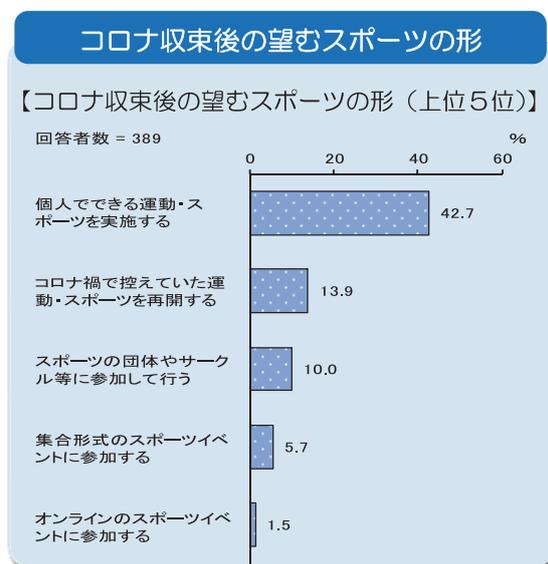
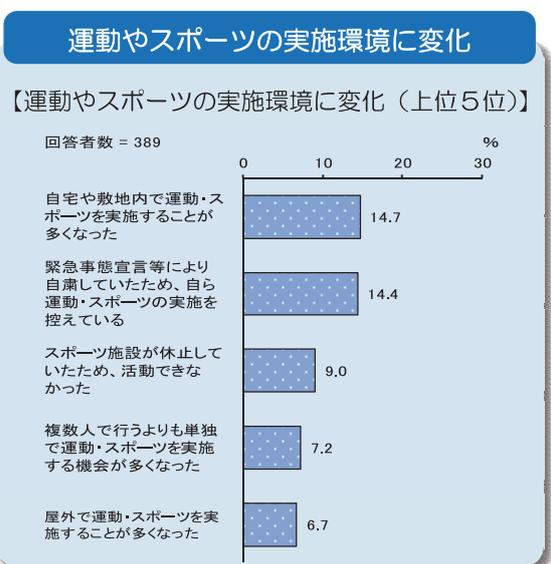
スポーツを実施していない理由、運動やスポーツを行うようになるために必要なこと

スポーツを実施していない理由としては、「健康、体力面で不安があるから」や、「仕事、家事、育児、介護等が忙しくて時間がない」等の回答が多くみられました。また、運動やスポーツを行うようになるために必要なこととして、「健康上の不安がなくなる」の割合が高くなっています。



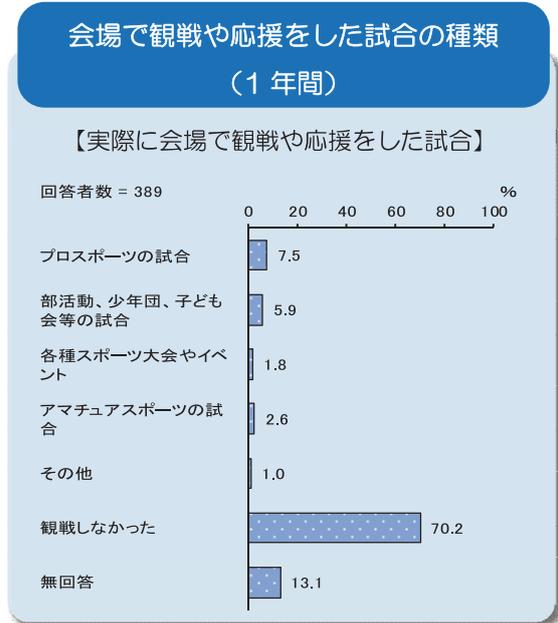
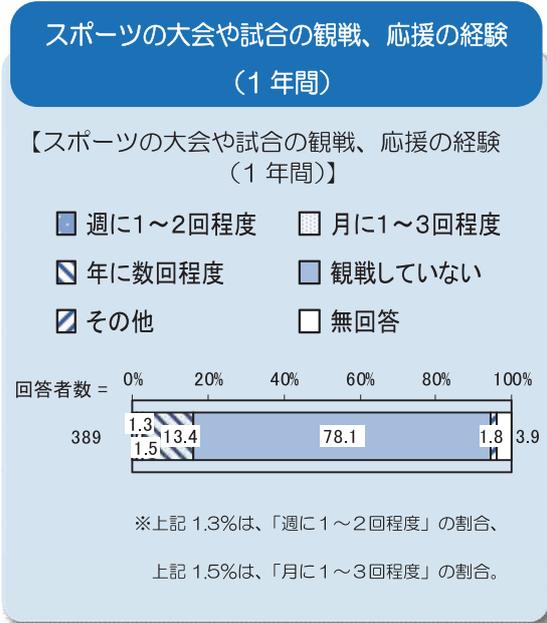
新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症拡大により、「自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった」等、スポーツを実施する環境も変化しています。また、コロナ収束後は、「個人でできる運動・スポーツを実施する」の割合が高くなっています。



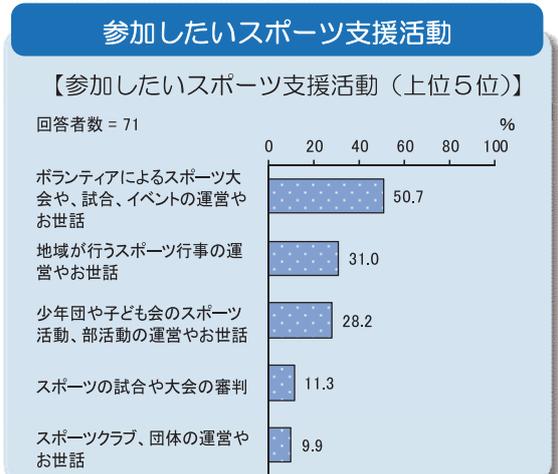
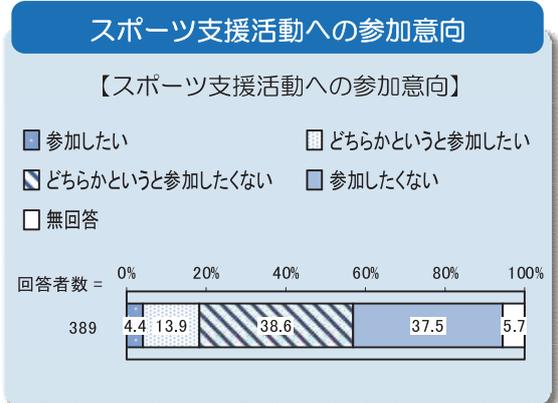
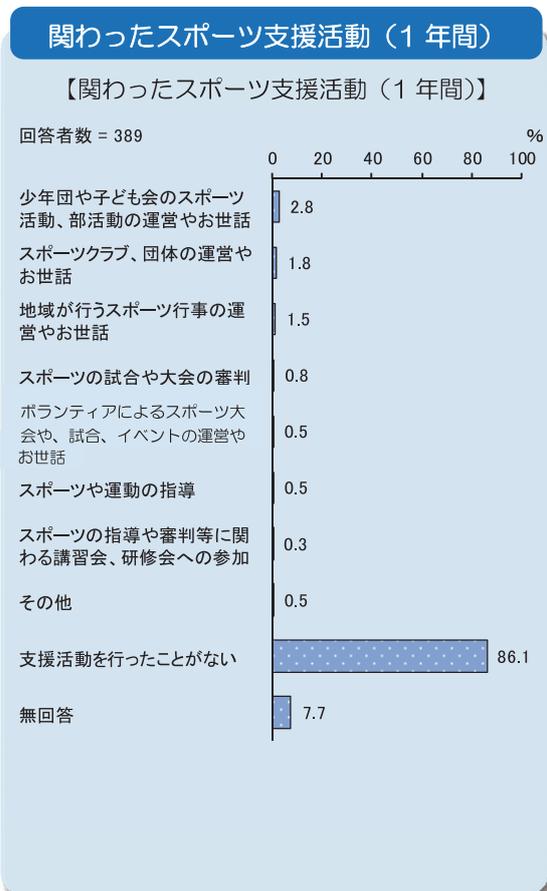
スポーツの観戦について

スポーツの観戦状況に関しては、1年間に数回以上直接観戦した市民は、16.2%となっています。実際に会場で観戦や応援した試合の種類としては、「プロスポーツの試合」「部活動、少年団、子ども会等の試合」の割合が高くなっています。



スポーツ支援活動について

関わったスポーツ支援の活動は、何らかの活動に関わった市民が6.2%となっています。また、スポーツ支援活動に、18.3%が参加意向（「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」の合計）があり、参加したいスポーツ支援活動としては、「ボランティアによるスポーツ大会や、試合、イベントの運営やお世話」の割合が50.7%と最も高くなっています。

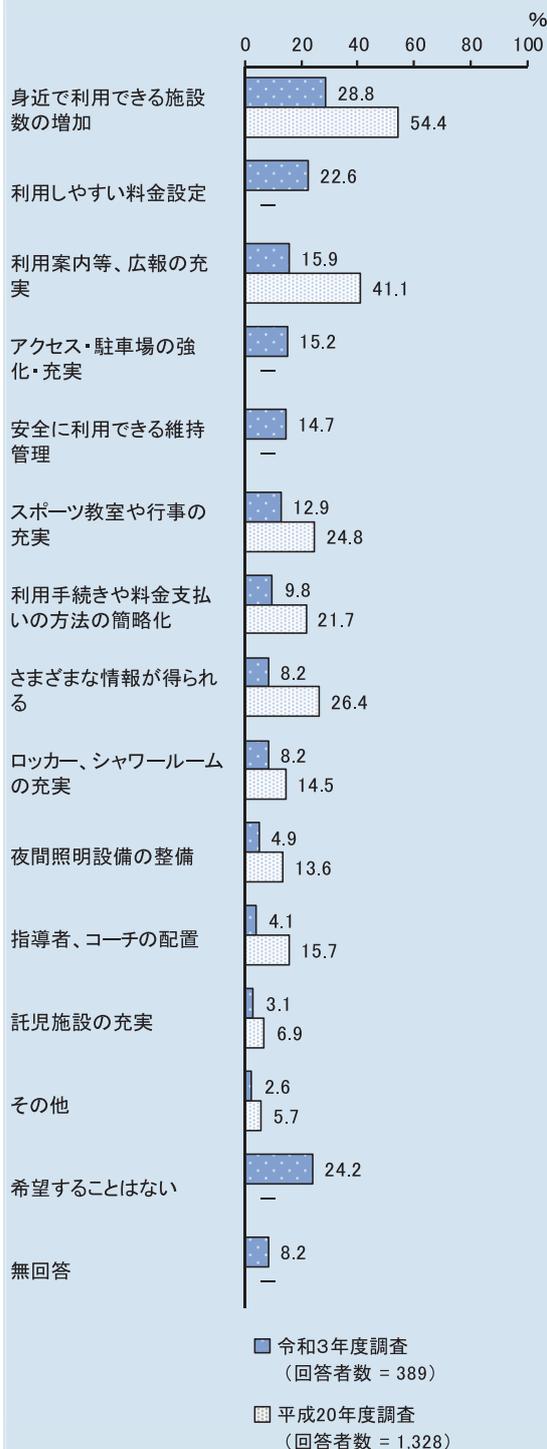


公共スポーツ施設について

公共スポーツ施設に希望することは、「身近で利用できる施設数の増加」が高くなっています。大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているものは、「災害時の防災拠点」や「延命公園や動物園等と連携した観光・集客の拠点」等、スポーツ施設だけではないさまざまな機能を望む割合が高くなっています。

公共スポーツ施設に希望すること

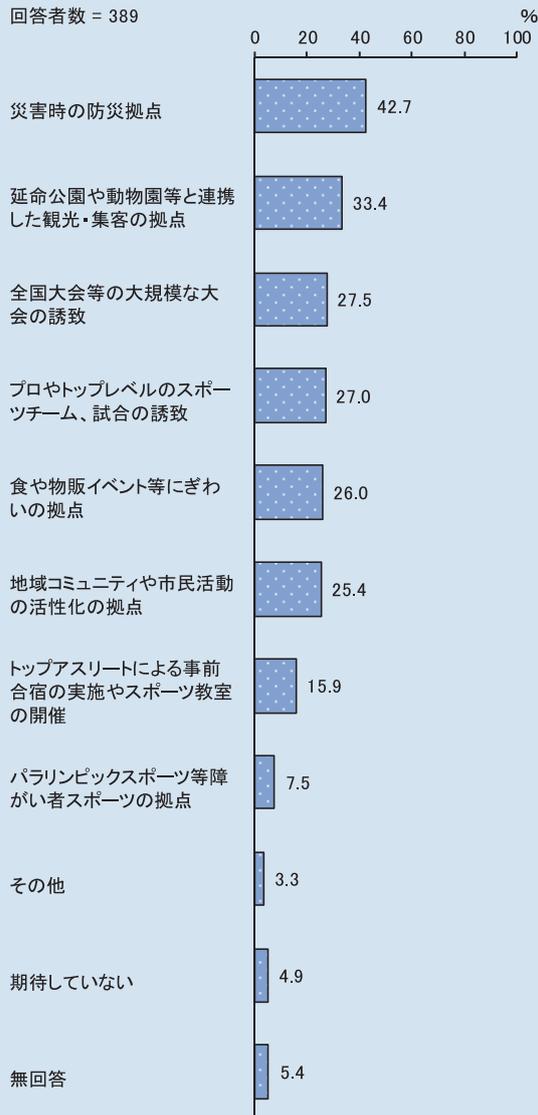
【公共スポーツ施設に希望すること】



大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているもの

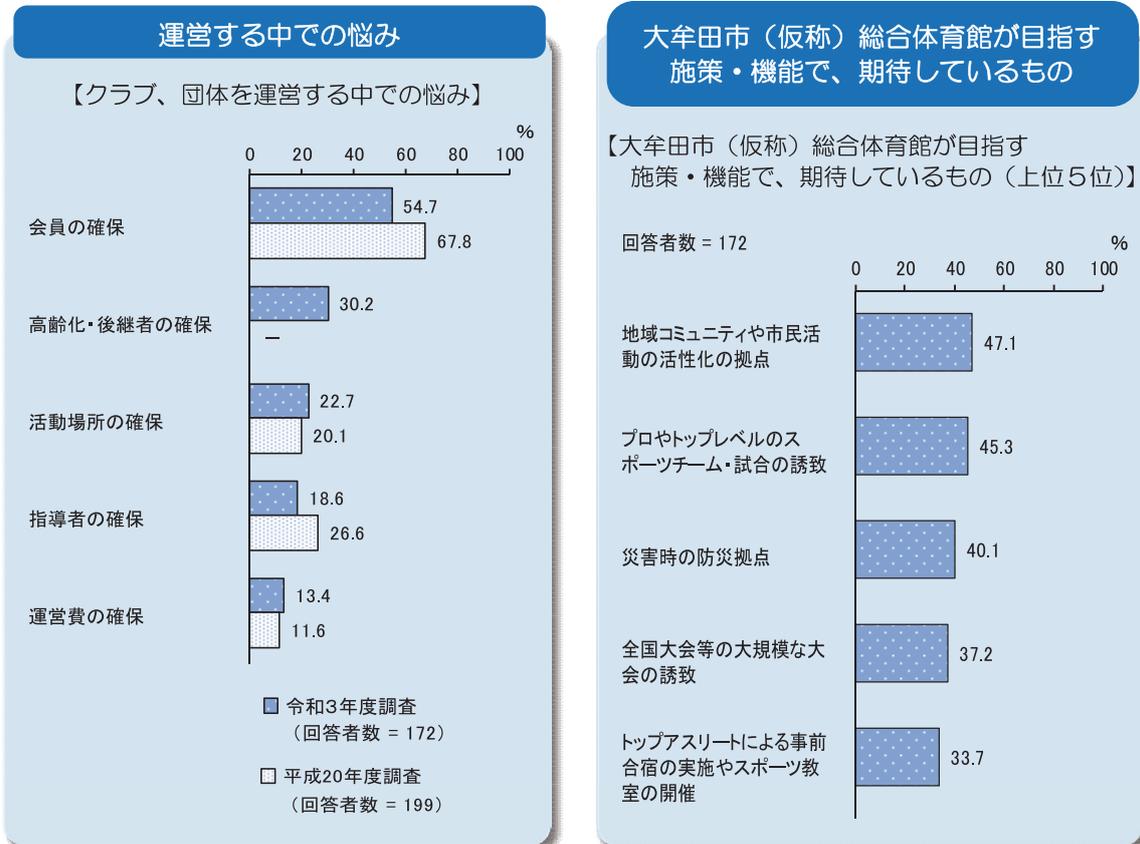
【大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているもの】

回答者数 = 389



2. スポーツクラブ調査

クラブ、団体を運営する中での悩みとして、「会員の確保」「高齢化・後継者の確保」などの人材不足が課題となっています。大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で期待しているものは、「地域コミュニティや市民活動の活性化の拠点」「プロやトップレベルのスポーツチーム・試合の誘致」等、スポーツを生かした地域活性化の割合が高くなっています。

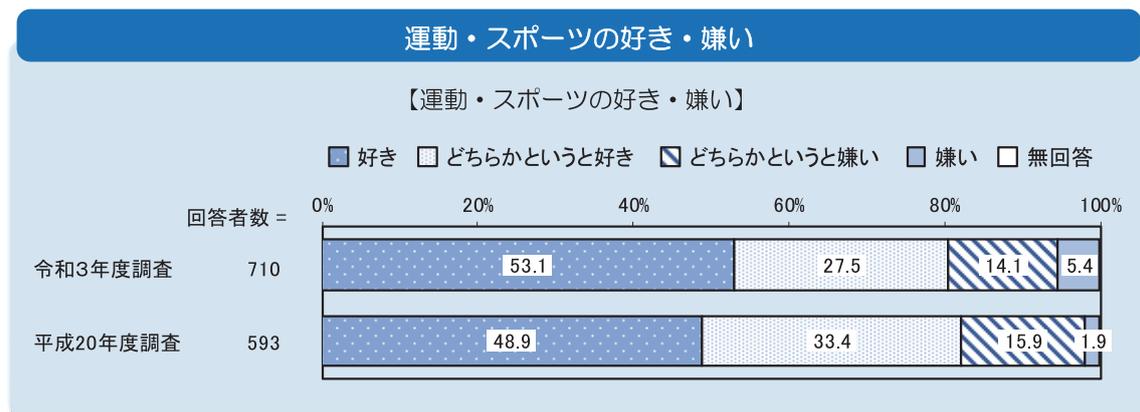


3. 児童・生徒調査

運動・スポーツの好き・嫌い

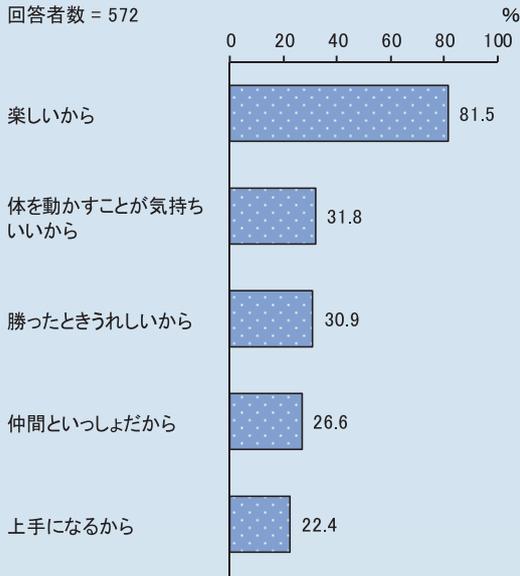
児童・生徒の運動・スポーツの好き・嫌いについては、平成20年度調査に比べて「好き」と回答した児童・生徒の割合が増加し、53.1%となっています。

好きな理由は、「楽しいから」が81.5%と高くなっています。嫌いな理由は、「苦手だから」「きついから」の割合が高く、幼い頃から身体を動かす楽しさを身に付けることや苦手意識を克服することが大切になります。



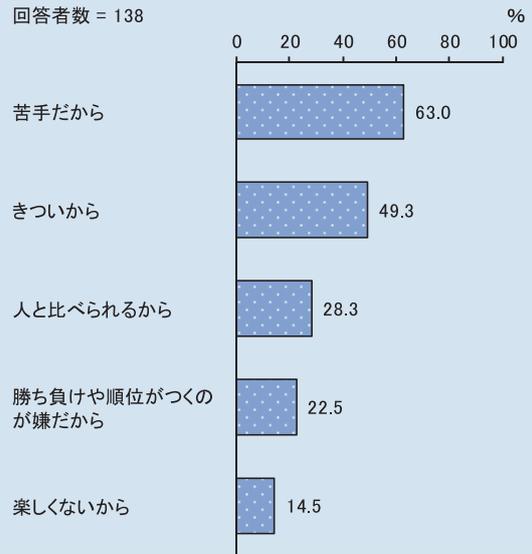
運動・スポーツが好きな理由

【運動・スポーツが好きな理由（上位5位）】



運動・スポーツが嫌いな理由

【運動・スポーツが嫌いな理由（上位5位）】

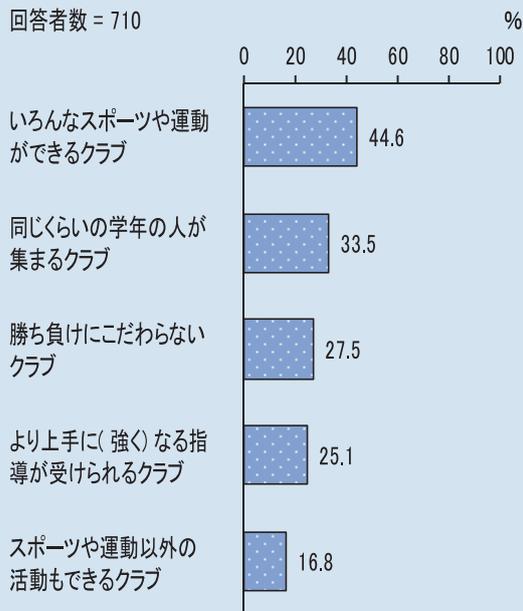


運動・スポーツへの意向

参加したいスポーツクラブ・教室は、「いろんなスポーツや運動ができるクラブ」の割合が高くなっています。また、大人になってからのスポーツや運動の意向については、運動・スポーツが嫌いな児童・生徒ほど、「やりたくない」の割合が高く、運動・スポーツの好嫌度が実施意向に強く影響していることがうかがえます。

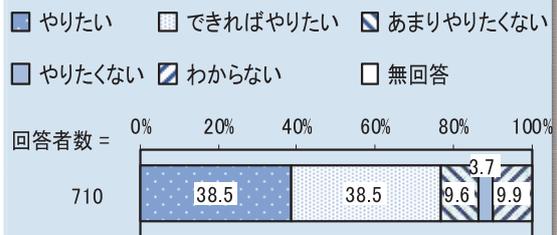
参加したいスポーツクラブ・教室

【参加したいスポーツクラブ・教室】

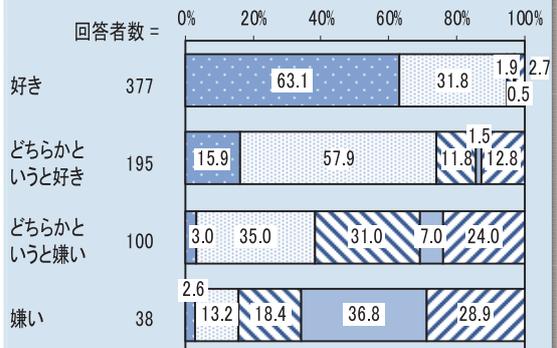


大人になってからのスポーツや運動の意向

【大人になってからのスポーツや運動の意向】



《スポーツや運動の好嫌度別》

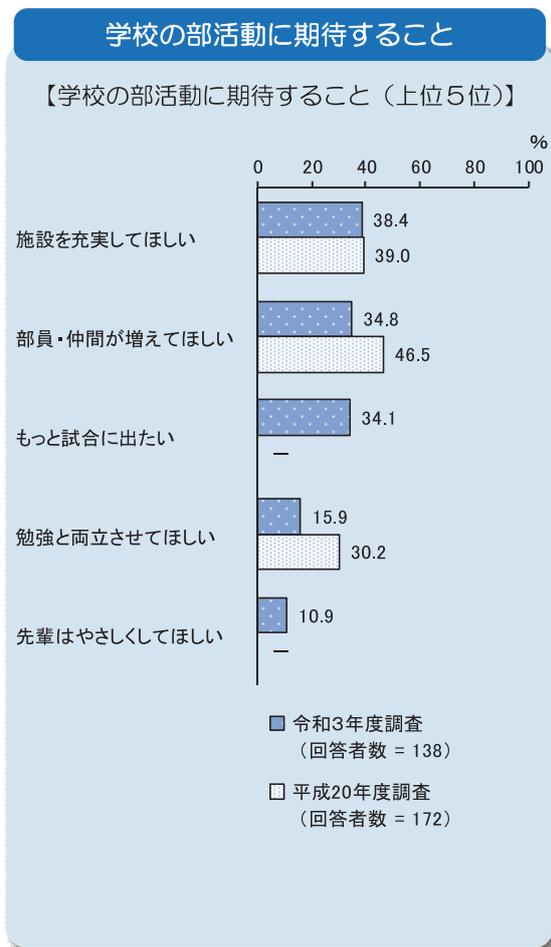
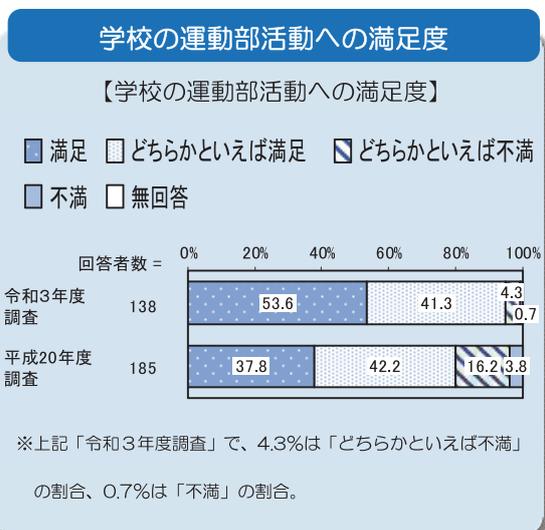
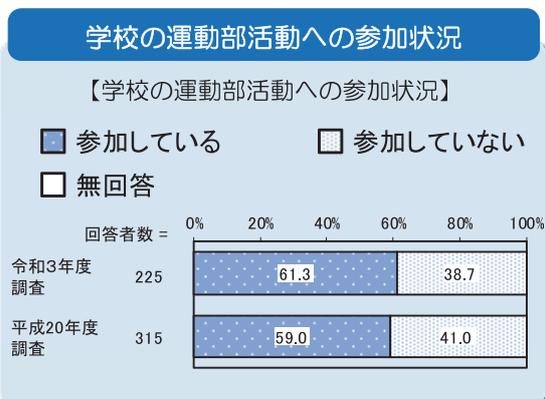


※上記「好き」で、1.9%は「あまりやりたくない」の割合、

0.5%は「やりたくない」の割合、2.7%は「わからない」の割合。

部活動について

学校の運動部活動に参加している児童・生徒は61.3%であり、94.9%が満足している（「満足」、「どちらかといえば満足」の合計）と回答しています。また、学校の部活動に期待することは、「施設を充実してほしい」「部員・仲間が増えてほしい」の割合が高くなっています。



第3章 スポーツ推進計画の構想

1. 計画の基本理念

『スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる都市づくり おおむた』

スポーツ都市宣言の趣旨の実現を目指し、誰もが心身ともに健全な社会を実現するために、市民がいつでも、どこでも、自主的かつ自律的にその適性及び健康状態に応じて、誰もが気軽に生涯にわたりスポーツに親しむことができるよう、スポーツの機会づくり、支援の仕組みづくり、楽しめる環境づくりを推進します。

また、スポーツを通じて、多くの人と人がつながり、より良く深い関係・絆をつくることで、誰もが健康で活気あふれたまちづくりを推進します。

2. 計画の目標及び成果指標

平成23年に制定されたスポーツ基本法は、「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」という言葉から始まります。

スポーツは、私たちの「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すと共に、健康及び体力の保持増進、精神的な充足の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人または集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、明るく豊かで、活気に満ちた社会の形成に寄与する人類共通の文化です。

スポーツ基本法の、「スポーツを通して幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であるという法の趣旨の実現を目指していく必要があります。

前計画の評価及び基礎調査結果を踏まえ、前計画で基本施策としていた3項目を、本計画の目標として引き続き推進します。

目標1

誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり

成 果 指 標	基準値	目標値
週1回以上運動・スポーツを行っている市民の割合	46.3%*1	70%
児童生徒の運動・スポーツが好きという割合	53.1%*2	全国平均以上
障害者を対象としたスポーツイベントへの参加者	459人*1	560人以上

*1 令和2～3年度についてはコロナ禍の影響が大きく反映したため令和元年度実績を基準値とした。

*2 令和3年度調査

目標 2

活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり

成 果 指 標	基準値*	目標値
広域スポーツ大会の開催	13 大会	20 大会以上
県民スポーツ大会の総合成績順位	6 位	5 位以内

* 令和 4 年度実績

目標 3

スポーツがしやすい環境づくり

成 果 指 標	基準値*	目標値
公共スポーツ施設の利用者数	33 万 8 千人	年間 35 万人以上
学校体育施設の利用者数	20 万 8 千人	年間 21 万人以上

* 令和元年度以降についてはコロナ禍の影響が大きく反映したため平成 26～30 年の
平均値を基準値とした。

第4章 施策の推進

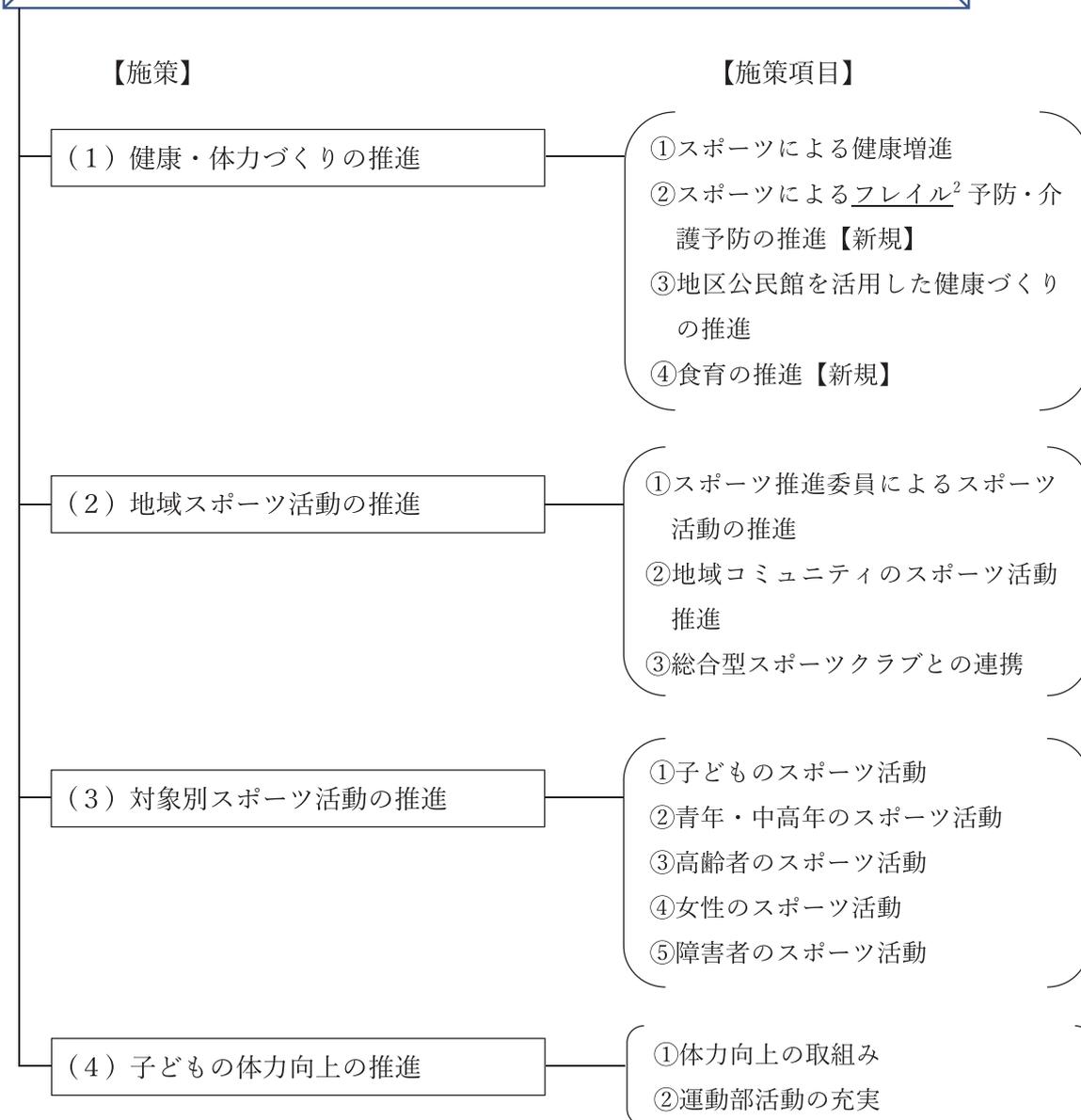
1. 施策体系

【基本理念】

『スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる都市づくり おおむた』

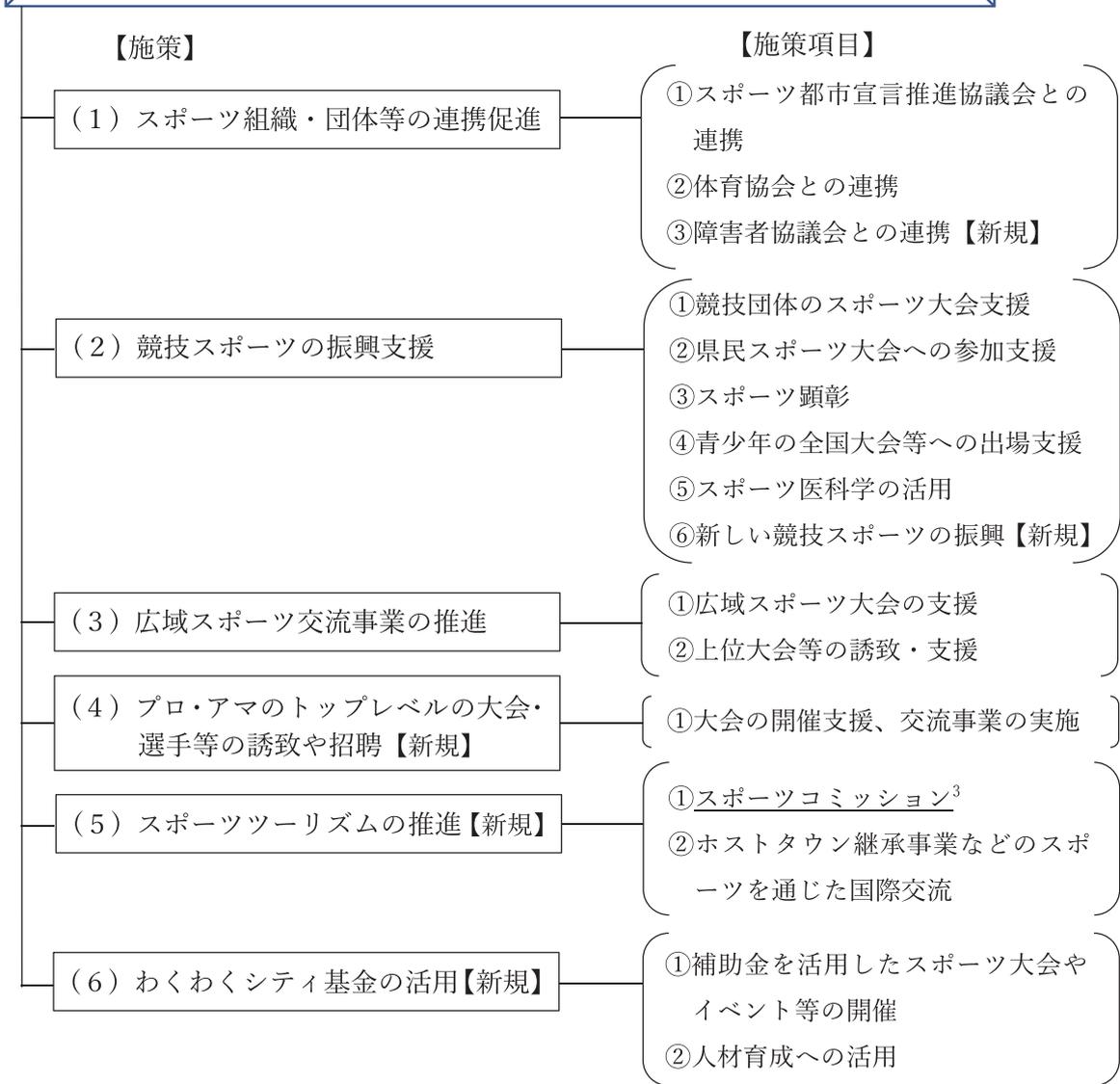
【目標】

1 誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり

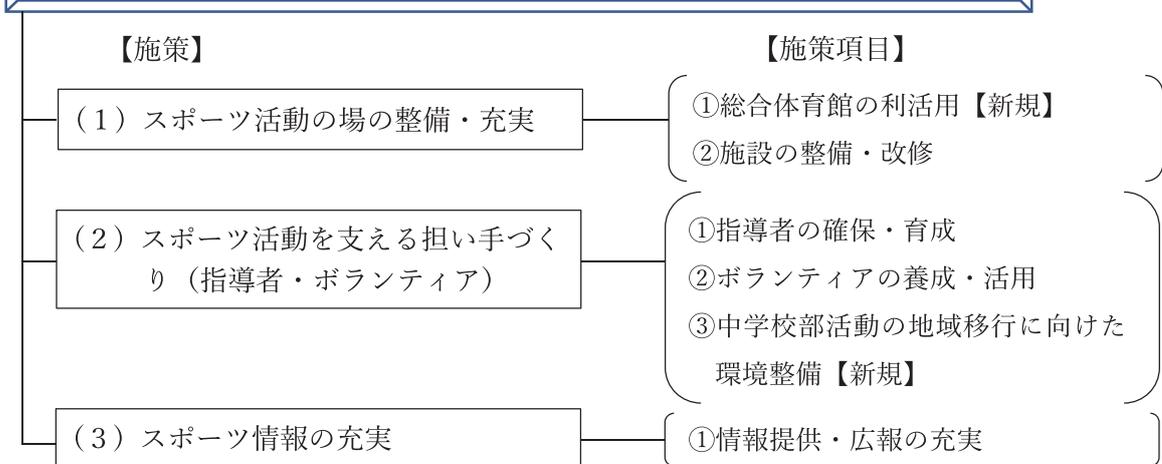


² フレイルとは、年をとるとともに心身の活力が低下した状態（筋力や認知機能、社会とのつながりが低下した状態）をいう。

2 活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり



3 スポーツがしやすい環境づくり



³ スポーツコミッションとは、スポーツ大会やイベント、合宿の誘致、スポーツを通じた交流促進等による地域活性化と市外からの誘客を目指す官民一体型の専門組織。

2. 施策の方向性

目標1 誰もがどこでも気軽に親しめるスポーツ活動の機会づくり



スポーツは、私たちの「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すだけでなく、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものです。

子どもから高齢者、障害のある人ない人、健康面に不安がある人や、日頃スポーツに親しみが無い人などが気軽にスポーツに親しめる機会づくりを推進します。

また、外出が困難な状況になっても、他の人と一緒に活動が実施できるよう、ICTを活用したスポーツの機会創出等を検討します。

目指す姿

★誰もが生涯にわたりスポーツに親しみ楽しむことができる。

(1) 健康・体力づくりの推進

身体活動量の低下が、生活習慣病増加の一因になっているといわれています。身体活動量が多い人や運動をよく行っている人は、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病、肥満、骨粗しょう症、結腸癌などの罹患率及び死亡率が低いこと、また、身体活動や運動がメンタルヘルスや生活の質の改善に効果をもたらすことが認められています。

スポーツを楽しみながら適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防につながり、ひいては健康寿命の延伸や医療費の適正化が期待されます。

また、フレイルを予防するためには、運動、栄養、社会参加が重要です。人と一緒にスポーツ活動を続けることで、運動と社会参加によるフレイル予防の効果が期待できます。

①スポーツによる健康増進

- ・安全かつ効果的なスポーツの習慣化を促進することで、市民の健康増進を図ります。
- ・ウォーキングやラジオ体操など、身近な場所で、気軽にスポーツ活動ができる機会を増やします。
- ・スポーツの習慣化のきっかけづくりとして、毎年5月の最終水曜日に開催しているチャレンジデーに継続して取り組みます。
- ・医療や介護分野の取組みと連携し、病や障害を負った人が、スポーツを通して予防や身体機能の改善、向上などにつながるようなスポーツ活動を促進します。

令和元年（2019年）の健康寿命と平均寿命

男性 健康寿命	72.68 歳	男性 平均寿命	81.41 歳
女性 健康寿命	75.38 歳	女性 平均寿命	87.45 歳

* 令和4年版厚生労働白書による

②スポーツによるフレイル予防・介護予防の推進

・庁内の関係部局と連携し、フレイル予防の効果が期待できるグループでの継続的なスポーツ活動の実践を支援します。

・フレイルの要因の一つに、筋力低下があります。筋力を維持・強化する運動についての啓発や、医療・介護などの分野と連携した事業の実践により、活動機会の増加に努めます。

③地区公民館を活用した健康づくりの推進

・地区公民館では、スポーツに関する機会の提供や住民の学習活動の支援を行っています。引き続き、日ごろ運動・スポーツをする機会が少ない住民に対して、健康づくりや仲間づくりなどの取組みや情報提供等の充実に努めます。

④食育の推進

・不規則な食事や栄養の偏り、運動不足などにより、肥満や生活習慣病などの様々な問題が生じています。生涯にわたって健全な心身を培うために、庁内の関係部局と連携し、適度な運動や食の大切さについての理解を促進します。

・また、フレイルを予防するためにも、日々の食事を通じて良好な栄養状態を保つことが重要なことから、その普及啓発に努めます。

(2) 地域スポーツ活動の推進

スポーツ活動は、地域住民の結びつきを強め、地域の一体感を生むなど活気ある地域づくりに大きく貢献します。

地域スポーツを推進することにより、スポーツ活動を通じての仲間づくりや多世代間の交流を図り、コミュニティ形成につながることを期待されます。

①スポーツ推進委員によるスポーツ活動の推進

・地域においてスポーツ教室や大会の開催を推進します。

②地域コミュニティのスポーツ活動推進

・地域住民同士で、ニュースポーツやレクリエーション、ゆるスポーツ⁴などを実施する自主的なグループの立ち上げや活動を支援するために、スポーツ推進委員等と連携し取り組みます。

③総合型地域スポーツクラブとの連携

・本市では、右京ふれあい健康クラブの1箇所が総合型地域スポーツクラブとして活動しています。総合型地域スポーツクラブの認知度が低いことから、クラブの普及啓発・情報提供に努めます。

⁴ゆるスポーツとは、年齢や性別、運動神経や運動経験、障害の有無にかかわらず誰もが気軽に楽しめるように考え出されたもの。

・中学校運動部活動の地域移行においては、国・県の動向を注視しながら、総合型地域スポーツクラブが果たす役割の検証を進めます。

(3) 対象別スポーツ活動の推進

生涯を通じてスポーツに親しみ、習慣化できるように、市内の関係部局や関係団体等とも連携し、それぞれの対象に応じたスポーツ活動を推進します。

①子どものスポーツ活動

・生涯にわたってスポーツを継続していくためには、子どもの頃からスポーツを楽しむ習慣を持つことが重要となります。日頃から、スポーツに親しむ機会を増やし、運動好きの子どもを増加させていくために、親子で遊びなど楽しみながら運動に親しむ子ども向けの教室や親子で参加できるイベント等を開催します。

・スポーツ少年団は、スポーツを通して青少年のこころとからだを育て、人々をつなぎ、地域づくりに貢献することを理念に活動しています。スポーツ大会や交流会・研修会等の開催を支援し、スポーツ少年団の活動の活性化を促進します。

②青年・中高年のスポーツ活動

・中高年齢者のスポーツ活動は、市民意識調査結果からも、仕事などで時間が取れないなどの理由で、スポーツの実施率が低い傾向にあります。身体活動量の低下等による生活習慣病の発生も増加する傾向にあることから、健康づくりを進める上でも、自由時間を有効活用して、運動不足の解消を図るため、動画やSNS等を利用した情報提供の充実を図り、スポーツ活動を推進します。

③高齢者のスポーツ活動

・高齢者にとってのスポーツは、健康で明るい生活を送るための「生きがいづくり」と「健康づくり」として重要な役割を果たす活動のひとつです。
・気軽に楽しめるニュースポーツの普及促進や、地域の身近な場所でスポーツ活動ができるような環境づくりに努めます。

④女性のスポーツ活動

・女性のスポーツ活動は、男性に比べ低い現状にあります。その背景には、女性とスポーツに関する様々な課題があり、これらの課題解決には、女性特有の「身体的特徴」や「意欲・ニーズ」などへの配慮が必要だと言われています（日本スポーツ協会指導者ハンドブックより）。女性が気軽にスポーツを実施しやすい環境の整備を行います。

⑤障害者のスポーツ活動

・障害者が気軽にスポーツに親しめるような環境づくりに取り組みます。
・共生社会の実現に向けて、障害のある人もない人も一緒にスポーツを通じて交流できる機会づくりに努めます。
・障害者の施設利用を促進するために、障害者スポーツに対する指導者の育成や施設運営者側の理解促進に努めるとともに、誰もが使いやすい環境整備に努めます。

(4) 子どもの体力向上の推進

子どもの体力や運動能力及び運動習慣を把握し、体力向上に取り組むとともに、運動部活動の更なる充実に向けて取り組みます。

①体力向上の取組み

・学校においては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をもとに、体力や運動に対する課題を明確化し、学校ごとに共通して取り組む「1校1取組運動」を実施し、組織的に体力向上に努めます。また、児童生徒の実態に応じて、子ども大牟田体力検定等を活用し、個々人が課題をもって運動に取り組んだり、休み時間に外遊びを推奨するなど体を動かす機会を設定し、運動習慣の定着を目指します。

・また、地域においては、多様な方法で積極的な周知を図り、体育的イベントへの参加者の増加を目指します。

②運動部活動の充実

・中学校においては、将来にわたりスポーツに継続的に親しむことができるよう、生徒の自主的・主体的な参加による運動部活動を通して、責任感・連帯感等を涵養するとともに、人間関係の構築や自己肯定感の向上、および信頼感、一体感の醸成を図ります。

・また、国や県の部活動の地域移行の動向を鑑み、本市の実態をふまえて部活動の見直しを進めます。

目標2 活気あるスポーツ活動を支える仕組みづくり



市民が豊かなスポーツライフを形成・定着していけるよう活動支援のための仕組みづくりを推進します。スポーツ組織・団体の連携を促進するとともに、スポーツ都市宣言推進協議会の活動の活性化を図り、スポーツを通したまちづくりを推進します。

目指す姿

★スポーツ活動を支える基盤が充実している。

(1) スポーツ組織・団体等の連携促進

本市は、平成2年にスポーツ都市宣言を行い、スポーツを通して住みよいまちづくりをめざし、その周知並びに実践活動を推進する組織として「大牟田市スポーツ都市宣言推進協議会」を設置しています。

①スポーツ都市宣言推進協議会との連携

・41団体が加盟し、スポーツ市民の祭典や市民スポーツ大会の開催・支援を行っています。市内の商工界、学校、医療・福祉団体、労働界などを網羅している協議会であり、今後も連携を図りながら、スポーツを通したまちづくりを推進します。

②体育協会との連携

・大牟田市体育協会は 29 加盟団体により市民の体力向上や競技力の向上に努めています。また、市内には、スポーツを通じて青少年の健全育成を目的とするスポーツ少年団が 35 団体あり、体育協会内に団本部が設置されています。

・スポーツに関する情報や、加盟団体の支援・人材の育成などの施策を推進するにあたっては、専門的な知見、競技団体とのネットワークを有する体育協会と緊密な連携を図りながら取り組みます。

③障害者協議会との連携

・大牟田市障害者協議会は、障害者スポーツへの理解とその普及、促進に取り組んでいます。障害者スポーツを推進するにあたっては、専門的な知識と経験を有する障害者協議会と緊密な連携を図りながら取り組みます。

(2) 競技スポーツの振興支援

競技スポーツは、自らの能力と技術の限界に挑む活動であると同時に、その優れた成果は人々に夢と感動を与えてスポーツへの関心を高め、スポーツの振興に資するとともに、活力ある地域づくりにも貢献するものです。

競技力の向上や競技スポーツの普及発展のため、各競技団体の組織強化に向けて、体育協会等と連携して活動の支援を行います。

大学等との連携により、スポーツ医科学を活用した競技者等への支援を充実します。

①競技団体のスポーツ大会支援

・おおむた市民体育大会等の開催支援を継続します。

②県民スポーツ大会への参加支援

・市民のスポーツに対する意欲や競技力のより一層の向上を図り、目標をもってスポーツに取り組めるよう、本市代表としての選手団を派遣します。

③スポーツ顕彰

・本市のスポーツ振興と競技力向上並びに市民意識の高揚を図るため、功績のあった市民・団体を表彰します。

④青少年の全国大会等への出場支援

・全国レベル以上の競技大会に出場する青少年に対し、奨励金による支援を行います。

⑤スポーツ医科学の活用

・大学等との連携により、スポーツ医科学を活用することで、競技者及び指導者等へのサポート体制の確立に努めます。また、スポーツ障害の予防等に関する指導者研修等に取り組みます。

⑥新しい競技スポーツの振興

・オリンピック競技大会などを契機に人気が高まる、スケートボードなどの新しい競技スポーツの振興に向け、その競技に触れるためのイベント・教室等の開催や、活動するための環境整備の検討などを通じて、普及を図ります。

(3) 広域スポーツ交流事業の推進

広域スポーツ大会は、競技スポーツの振興と競技大会のレベルアップを支援するとともに、本市に多くの選手等が訪れることにより経済効果やまちの活性化につながります。今後も、広域スポーツ大会の開催支援を図ります。

①広域スポーツ大会の支援

・スポーツの振興、地域の活性化に寄与する広域スポーツ大会を支援します。

②上位大会等の誘致・支援

・全国、九州、県大会などのスポーツ大会等の誘致・支援に努めます。

(4) プロ・アマのトップレベルの大会・選手等の誘致や招聘

市民に夢や希望、活気を与え、スポーツに対する興味や関心を持つきっかけとなるよう、トップレベルの大会の誘致や選手等の招聘に取り組みます。

①大会の開催支援、交流事業の実施

・トップレベルの大会の開催支援や、スポーツ教室などを通じた市民と選手等との交流事業に取り組みます。

(5) スポーツツーリズムの推進

スポーツを通じた地域振興を目指す組織としてスポーツコミッションを立ち上げ、スポーツによるまちづくりの推進を図ります。

①スポーツコミッション

・スポーツ大会やイベント、合宿の誘致、スポーツを通じた交流促進等による地域活性化と市外からの誘客を目指し、地域におけるスポーツ振興、スポーツツーリズム推進のために、各種団体等が連携・協働して取り組みます。

②ホストタウン継承事業などのスポーツを通じた国際交流

・ジョージア柔道チームとの交流として、日本国内での大会における事前合宿の誘致や大牟田高等学校柔道部との合同練習、小・中学生との柔道教室などを開催します。また、駐日ジョージア大使館及び在ジョージア日本国大使館と連携し、交流事業等に取り組みます。

・アフガニスタンとの交流については、市内の小・中学校などで、故中村哲医師の功績について学ぶ授業などにより、ホストタウンのレガシー継承に取り組みます。

・また、国際的な視野と資質を持った青少年の健全育成を図るため、スポーツを通じた国際交流を推進します。

(6) わくわくシティ基金の活用

スポーツ・文化の振興を通じて、次世代を担う青少年の人材育成を図る目的で交付される「わくわくシティ基金事業費補助金」を積極的に活用します。

①補助金を活用したスポーツ大会やイベント等の開催

・わくわくシティ基金事業費補助金の交付制度を広く周知し、各種スポーツ大会やイベント等の開催に活用してもらうことで、青少年のスポーツ振興を図ります。

②人材育成への活用

・スポーツを通じた青少年の人材育成を図るため、わくわくシティ基金を活用した取り組みを検討します。

目標3 スポーツがしやすい環境づくり



市民が身近なところで、いつでも気軽にスポーツができるよう、スポーツ施設の整備・充実、学校体育施設の開放など多様なスポーツ活動の場を提供するとともに、指導者の育成やスポーツ情報等の提供など、スポーツがしやすい環境づくりを推進します。

目指す姿

★市民が身近なところでいつでも気軽にスポーツ活動に参加できる。

(1) スポーツ活動の場の整備・充実

運動・スポーツ活動の推進のため、スポーツ施設はもとより、学校体育施設、地区公民館、公園、野外活動施設、民間施設及び新たに整備している総合体育館などを有効かつ効率的に活用していきます。

①総合体育館の利活用【新規】

・令和6年4月オープン予定の、新しい体育館については、延命公園と一体となって、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に利用しやすい環境を整えます。また、健康づくり、体力づくりの拠点、さらには災害時の防災拠点としての機能を充実することによって、スポーツや運動を通じてひとを健康に、まちを元気にする緑に囲まれた施設を目指します。

・トップレベルの競技会や、各種スポーツ大会・教室等が効果的で効率的に開催できる施設運営に努めます。

・障害者が気軽にスポーツに親しみ、楽しみながら参加できる教室や体験会等の実施や様々な情報を提供することにより、障害者スポーツの理解を深めるとともに普及拡大を図ります。

・障害のある人が安心してスポーツを楽しめるよう、障害者スポーツ用品の充実を図ります。

②施設の整備・改修

・身近な野外活動の施設として、既存の公園等のできるスポーツの普及や遊具等の拡充を図ります。

・老朽化した施設の計画的な改修に努めます。

(2) スポーツ活動を支える担い手づくり（指導者・ボランティア）

スポーツ活動が市民に定着し発展していくには、優れた質の高い指導者の存在が重要です。生涯スポーツや競技スポーツの実践の場や運動部活動の場においても充実した指導のできる人材の確保・マッチングを図ります。

①指導者の確保・育成

・スポーツに関する人材の確保、資質向上を図るため、体育協会や競技団体等と連携を図りながら、指導者の確保・育成に取り組みます。

②ボランティアの養成・活用

・スポーツボランティアへの参加を促すために、ボランティア講座の開催やおおむた生涯学習まちづくり推進協議会と連携を図りながら、スポーツ指導者・ボランティアの登録派遣について充実を図ります。

③中学校部活動の地域移行に向けた環境整備

・スポーツ庁がまとめた「運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言」を受けて、体育協会や総合型地域スポーツクラブなどの関連機関等と連携をしながら、学校の実態を踏まえて段階的に運動部活動の地域移行を進めます。

(3) スポーツ情報の充実

スポーツ活動を促進するため、体育協会等と連携を図りながら、手軽に分かりやすく情報を入手できるように環境整備に取り組みます。

①情報提供・広報の充実

・スポーツ施設や教室、大会、イベント等のスポーツに関する情報の収集や、情報発信に努めます。

3. 施策の推進にあたって

本計画の基本理念である「スポーツで人と人との絆をつくり、健康で活気あふれる都市づくり おおむた」の実現に向けて、大牟田市スポーツ都市宣言推進協議会をはじめ、大牟田市体育協会、大牟田市障害者協議会等と連携を図りながら、施策の推進に取り組みます。

本計画の取組みが効果的に推進されるよう、市の関係部局や関係団体等の実施状況を把握し、大牟田市スポーツ推進審議会等の意見を聴きながら、進捗管理を行います。

また、各施策の進捗状況、国・県の動向、社会情勢等の変化を踏まえ、必要に応じて計画の内容を見直すことも検討します。

参考資料 1 スポーツ審議委員等名簿

1. 大牟田市スポーツ推進審議会 委員

役職	選出区分	委員名	所属団体等
会長	スポーツ関係団体	白石 政嗣	大牟田市体育協会（会長）
副会長	//	松尾 礼子	大牟田市スポーツ推進委員協議会
委員	学識経験者	道下 竜馬	学識経験者（福岡大学）
	スポーツ関係団体	江頭 信次	大牟田市体育協会（副会長）
	//	杉野 健次郎	大牟田市体育協会（副理事長）
	//	黒田 洋	大牟田市スポーツ少年団本部
	//	谷口 靖宏	右京ふれあい健康クラブ
	各種関係団体	金崎 克也	大牟田医師会
	//	永松 均	大牟田商工会議所
	//	福山 穂積	大牟田市障害者協議会
	//	天河 晃洋	大牟田市内高等学校校長会
	//	森田 紘知 松尾 聡明（後任）	大牟田市校区コミュニティ連絡協議会
	公募による市民	平野 瑞恵	
	//	白木 千吉	
	関係行政機関	野中 恵子 中島 由美子（後任）	福岡県（人づくり・県民生活部スポーツ局スポーツ振興課）
	市立学校の校長	萩島 弥穂	大牟田市小学校校長会
	//	遠藤 雅章	大牟田市中・特別支援学校校長会

2. 大牟田市スポーツ推進計画策定庁内委員会 委員

役職	部名	委員名	職名
委員長	市民協働部	大倉野 素子	副部長
委員	//	徳川 昭彦	生涯学習課長
	//	村上 陽子	生涯学習課 地域学習担当課長
	//	徳永 秀雄	スポーツ推進室長
	都市整備部	村上 崇	都市計画・公園課長
	保健福祉部	坂口 大輔	健康づくり課長
	//	鷹尾 俊介	福祉支援室 福祉課 障害福祉担当課長
	//	吉澤 恵美	子ども未来室 子ども育成課長
	教育委員会	杉野 浩二	学校教育課 指導室長

参考資料2 計画策定の経過

年月日	審議会等	協議事項等
令和4年 2月7日 ～28日	市民意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民 ・スポーツクラブ ・児童生徒
7月28日	第1回 大牟田市スポーツ推進 審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・現行計画の進捗について ・新たな「スポーツ推進計画」の策定について (市民意識調査の結果について) (次期スポーツ推進計画の策定について) (審議会への諮問について)
8月 ～10月	大牟田市スポーツ推進 計画策定庁内委員会 (3回開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画原案作成 ・原案について、庁内関係課より意見聴取
11月7日	第2回 大牟田市スポーツ推進 審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・大牟田市スポーツ推進計画(素案)について
11月25日	第3回 大牟田市スポーツ推進 審議会	<ul style="list-style-type: none"> ・大牟田市スポーツ推進計画(素案)について
12月19日	大牟田市スポーツ推進 審議会から市へ答申	<ul style="list-style-type: none"> ・次期大牟田市スポーツ推進計画に関する答申について
12月23日 ～1月20日	パブリックコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案について、市民より意見聴取
1月18日	教育委員会1月定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・大牟田市スポーツ推進計画(案)について

大牟田市スポーツ推進計画

令和5年3月

発行:大牟田市市民協働部スポーツ推進室
〒836-0872
福岡県大牟田市黄金町1丁目34番地
(生涯学習支援センター1階)
TEL:0944-53-1503
FAX:0944-41-2210

スポーツ都市宣言

平成2年7月6日制定

私たち大牟田市民は、生涯にわたってスポーツに親しみ、
スポーツを通してすみよいまちづくりをめざし、
ここにスポーツ都市を宣言します。

- 1 スポーツに親しみ、健康なからだをつくりましょう。
- 1 スポーツを楽しみ、明るい生活をおくりましょう。
- 1 スポーツを愛し、友情とふれあいの輪を広げましょう。
- 1 スポーツを通して、活気ある豊かな大牟田市をつくりましょう。

大牟田市

令和5年3月

大牟田市市民協働部スポーツ推進室